

### 地域共生社会の実現に向けて

「支える側」「支えられる側」という関係を超えて」

人口減少や少子高齢化が進む中で、地域における支え合いや見守り機能の低下、隣近所や人と人のつながりの希薄化などにより、社会的に孤立する方々への対応が課題となっております。

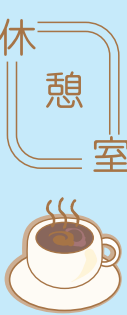
加えて、高齢者の認知症の問題や児童虐待、生活困窮など、市民や地域が抱える困り事は複雑・多様化しており、これまでの公的サービスや仕組みでは対応が困難な状況が生まれています。

住み慣れた地域で、だれもが安心して、いきいきと自分らしく暮らせるために、地域共生社会（身近な地域住民が主体となって助け合いながら、適切な支援につなぐためのネットワークが張り巡らされた社会）を実現することを目指しています。

**問** 高知市型共生社会とはどのようなものか。完成図のイメージについて聞く。

**答** 高知市型地域共生社会は、地域にあるさまざまな資源や人を活かしながら、互いに支え合える社会を構築しようとするもの

**「おもてなし」**  
令和元年も終わり、いよいよ2020年オリンピック・パラリンピックイヤーの到来です。2013年のIOC総会において、滝川クリステルさんの「おもてなし」のスピーチはまだまだ記憶に新しく、日本の文化や精神が世界的に発信されたことは、私たちにとっても大変誇らしく感じるものでした。  
皆さんにとっての「おもてなし」とはどういったものでしょう。私の前職は宿泊業であり、



まさしく「おもてなし」が一番大切な要素になる職業です。その職場では、おもてなしとは、「目の前の人を一番大切な人として接し、一生の想い出をつくらせてもらうこと」でした。もし、目の前に家族や恋人、親友がいたならば、きつと多くの方は最高のおもてなしをすることでしょう。

政を目指し、自主防災組織や高知方式と言われるごみ分別収集方式、市内370カ所に広がるいきいき百歳体操、こどもファンダなど、市民主体・住民参加型まちづくりの取り組みが進められている。これらの社会資源を活かし、行政や関係機関、地域のそれぞれの主体が手を携え、「つながりのある相談支援」を構築し、「地域の課題解決力」を強化していくことで、近年増加しているひきこもりや8050、ダブルケアなどの制度の縦割りによる支援では解決しえない福祉的な課題の解決にも取り組み、共に支えあいながら生きていくことができる高知市型共生社会の実現を目指す。

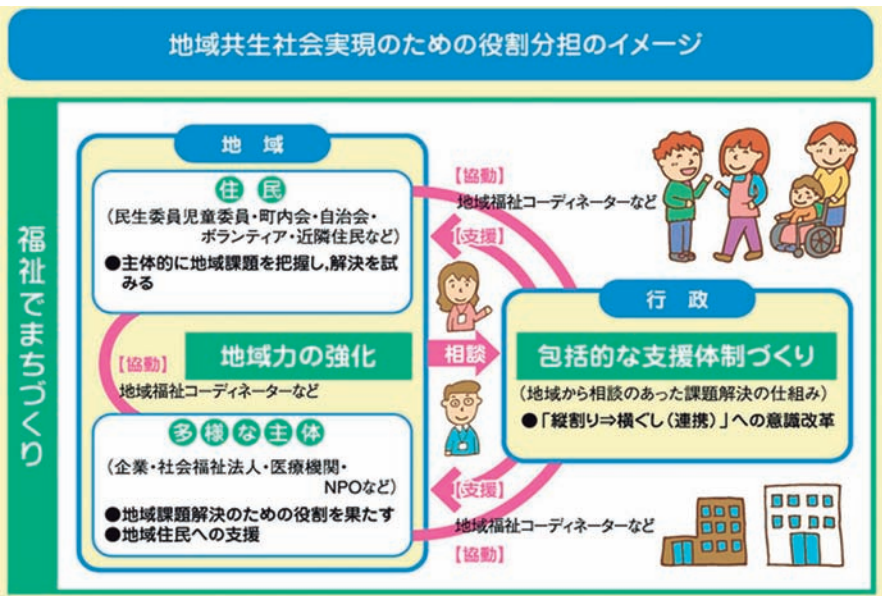
**問** 高知市型共生社会の実現に向けた、市や事業者、地域などが果たすべき役割について聞

**答** 東京オリ・パラを機に国内外問わず、たくさんの方が日本や高知に訪れます。また日本へ、また高知へ来たいと思ってもらうためには、一人一人の「おもてなし」精神にかかっている、と言っても過言ではありません。我々議員は当然のことながら、本市役所に勤める一人一人が「おもてなし」を大切にすること、市民の皆さんの満足につながります。新しい市役所はそんな場所でありたいですね！  
(議会広報委員 横山公大)

**答** 地域共生社会の取り組みは、民間事業者や地域が一体となり、市民と共に、共同で進めていくことが不可欠であるため、本市では、地域を元気にしたいという思いを持ち活動する住民や団体等のさまざまな地域活動が、地域の力を発揮するためのプラットフォームを構築する取り組みを進めている。

既に、昨年11月に三里地区をはじめとする5地区において、薬局や社会福祉法人等のご協力により、「ほおच्छよけん相談窓口」を26カ所開設し、相談を地域の活動体や社会福祉協議会、行政へつなぐ機能を構築しており、今後は全市域に広げたいと考えている。

また、本年2月には、住民の皆様様にリアルタイムで情報提供



福祉でまちづくり

でき、同時に、それぞれの支援に当たる民間機関や社会福祉法人、ボランティアなどがつながり合うツールとして活用できる、地域福祉に関わる社会資源情報を提供するシステムを構築する。

住民や事業者、社会団体の皆様には、「ほおच्छよけん相談窓口」や社会資源情報提供システムを活用しながら、地域の情報を共有し、地域の中でさらにつながりを強める活動が進むことを期待している。